

## 「地域創造」コースによる地域の活性化に挑む学校

### 地域

- ・ 若者の大都市圏への人口流出が進行
- ・ 将来的に地域の担い手不足や経済活動の停滞が予想

### 本研究より地域と学校を結びつける

- ・ 地域のプロフェッショナルとの協働プロジェクトを実践
- ・ 地域を学びの場として捉え、地域に開かれ必要とされる学校づくり
- ・ 地域の魅力を発見し、地域への誇りを持つ

### 学校

- ・ 多くの生徒が県外へ進学後、地域に戻ってこない
- ・ 中学まで行われていた地域との学びが途切れ、地域との関係性が希薄

### <研究開発の実施体制>

#### <教員>

- ・ 持続的な地域について様々なプロジェクト型学習やESDの観点から教科横断型授業の実践
- ・ 担当教員は地域人材や企業と協働するコーディネーター兼、生徒のプロジェクト型学習のファシリテーター
- ・ チームとして機能させるためのチームビルドを担当

#### <コンソーシアム>

- ・ 地域の異業種交流会のメンバーを中心に、様々な業種のリーダーから構成。
- ・ カリキュラム構築を行うと共に、プロジェクトの実践・評価者として参画
- ・ 学校と地域社会の橋渡しを行う役割を果たし、生徒の活動を支援

#### <I-Labo>

- ・ 校内の教員研修組織として、プロジェクトの実施や成果を評価
- ・ プロジェクトの実践やチーム作りについて研修を深め、次の実践者を育成

### < 目標と成果 > 目標

#### 教科の系統性の実践検証

開発したカリキュラムに基づき、地域創造コース1年生で地域企業と協働して取り組む5つのプロジェクト型学習、2年生が自由に課題を定め取り組むクエストエデュケーションを実施する。

地域での学びを、プロジェクトの実践を通して教科としてのカリキュラムの検証を行う。

### 成果



### 課題

#### ① 実施プロジェクトの精選と教員の負担減

これまでのマンパワーに頼った実践を解消するため、教員5人で担当を分散させることで負担の軽減と実践の共有・拡散に取り組んだ。拡大するクエストエデュケーションの運用において、共有化と標準化とともに、評価や指導スキルの研修が課題として残りました。

#### ② 教材化に向けた実践検証

本校で実践しているポスタープロジェクトは、青森県・三重県・神奈川県で実践を行い教材化はほぼ完了しました。そのほかにも、地域の学校で本校のプロジェクトを教材として導入が進みましたが、教材としての検証は十分とは言えませんでした。今後も、実践を重ねていく必要があります。

#### ③ 進路実現に向けた追跡調査

本年度は2年生クエストエデュケーションを実施し、成果報告を全国に向けて発信することができました。クエストエデュケーションを先行実践していた3年生は、これまでの取り組みを活かして進路を決定しましたが、地域創造コース45名の生徒の進路実現については次年度以降の課題であり、大学卒業後の就職まで追跡調査が必要だと考えています。

### 教材化と拡散

地域で学ぶプロジェクト型学習を教材として他地域に拡散させる。

ARTの力を地域に還元する教材の開発と実施プラットフォームの整備を行う。

